清水港客船誘致について

Q **今後の豪華客船歓迎への対応について具体的な事業などはあるのか？**

A 来年度は 70 隻超え、今後 100 隻を超える見通し。受け入れ態勢の充実を図り、環境を整えていきたい。新入港への歓迎セレモニーはもちろんだが、自由行動を選択している観光客をいかに市内に引き込んでいけるかを検討していきたい。又、エージェンシーに対して、予めプログラミングしてもらえるように働きかけていく。さらに観光案内出来るボランティアの養成も進めている。

清水港海釣り公園について

Q **釣った魚を食べられるような施設の併設や後方の緑地帯の整備などを行い、道の駅的な複合施設・目玉の観光スポットにはできないのか。**

A 現在は岸壁近くに釣りのできる施設の整備を行っている。公園部分など基盤整備調査など進めなければならない。
まだ、複合施設は進めていない。

アンテナショップについて

Q **東京銀座に開設予定のアンテナショップだが、100%満足の物件はないと思う。いつまでに決定するのか？**

A 出来るだけ早期に、平成 30 年度の早いうちに決めたいと考えている。

オクシズ「漆 -Japan- の里」事業ついて

Q **なぜ漆を選択したのか。**

A 現在国産漆の 80％は岩手県二戸市が生産している。静岡市には国宝建造物をはじめ文化財などがたくさんある。今後のそれらの修復・改修等には、文化庁の指導で、国産漆の使用でなければならないとされている。今後の需要を見越し、漆の生産をすすめることになった

オクシズ「漆 -Japan- の里」構想研究事業とは…
漆の育樹、採取、加工を生業とする「オクシズ漆の里」を創設し、雇用増、人口増を図る事業。今年度は可能性調査を実施する。

中小企業支援について

Q **中小企業支援として、円滑な事業承継が行えるよう、どのような支援を行っているのか？**

A 代表者が 60 歳以上の企業に指導を行っている。どのようなことを望んでいるのか、事業用地の確保などの対応等、それぞれの企業に寄り添い、タイミングを逃さず、オーダーメイドの支援をやっていきたい。

「お茶のまち静岡市」の推進について

Q **茶どころ日本一計画に基づき、どの様な施策を進めているのか。**

A お茶は、静岡市を支える大事な基盤である。収益性の高い産業経営を進めていく必要がある。この10年間で農業収益が63億円の減収になっており、そのうちの 9 割がお茶産業が占めている。10年後には 65 歳以上の経営者が 8 割を占めるようになる見通し。何か付加価値のあるお茶産業にしていかなければならない。後継者の育成や指導者の養成が必要から、政策研究大学大学院に職員を送り、効果的な政策立案できる人材育成を進めている。

どんなに素晴らしい施策でも、市民の認知度なしには広がらないし、実のなったものになりません。市民の立ち位置とかけ離れていては行政の空回り・独りよがりになりかねません。常に市民目線を気にしていてほしいものです。両局共に、交流人口の拡大・人口 70 万人の維持を担う局として盛りだくさんの施策を抱えて新年度予算が組まれています。より大きな成果を生み出すことを期待します。働く場さえあれば、人が集まってくる条件が整っているので、企業誘致や起業支援に力を入れてほしいものです。

6月議会日程
(6/19 ～ 7/10)

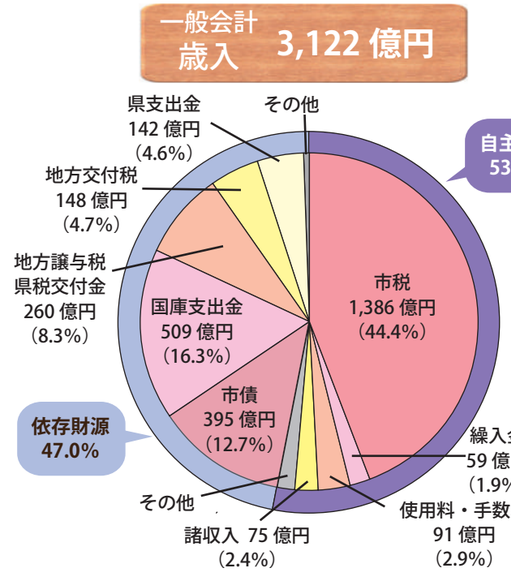
6 月 19 日　本会議（議案上程）
6 月 27 日・28 日・29 日
本会議（総括質問）
7 月 3 日・4 日　委員会
7 月 10 日　本会議（表決）

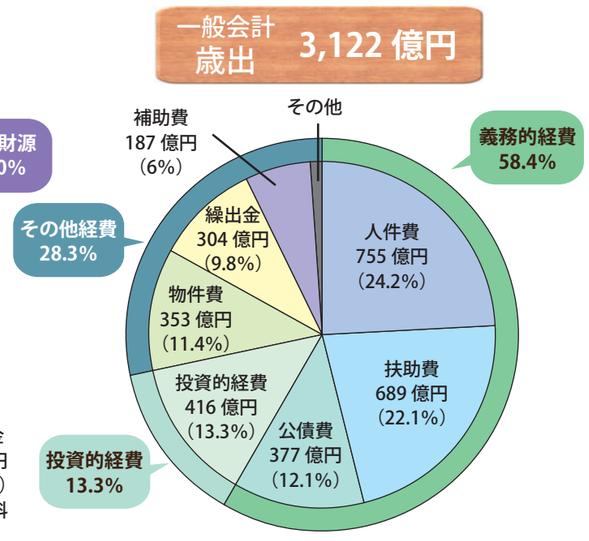
佐藤せい子（志政会所属）
議会だより

H30 年 4 月発行
発行／静岡市議会志政会
編集／志政会 広報部
〒422-8004
静岡市駿河区国吉田 4-25-19
TEL：054-267-2000
URL：satoseiko.com

平成 30 年度当初予算一般会計 3,122 億円（前年度比 +0.2%）

平成 30 年度当初予算の一般会計は 3,122 億円で、前年度比 6 億円（0.2%）増と過去最大規模となりました。歳入は、教職員の給与を市が払うようになり、県から税源移譲されたほか、企業業績が回復したことで、市税収入が 100 億円以上増えると見積もっています。また、歳出は保育園の待機児童解消対策などで扶助費が膨らみ、全体の規模を押し上げています。借金にあたる市債は 395 億円を発行。平成 30 年度末の市債残高は 4,761 億円の見込みで、市民一人あたり 67 万 4,000 円の借金がある計算になります。





市民 1 人当たりの予算 447,245 円はこのように使われます

民生費
14 万 6,687 円
(+3,627 円)

私立こども園・保育所等給付費や自立支援給付費、障害児施設給付費の増加等により、前年度より約 20.7 億円増

教育費
6 万 9,786 円
(-724 円)

小中学校教職員の人件費や改修完了に伴う小中学校体育館大規模改修事業の減少等により前年度より約 7.3 億円減

土木費
6 万 4,197 円
(-2,121 円)

公債費
5 万 4,271 円
(-113 円)

公債利子の減少などにより、前年度より約 2.6 億円減

衛生費
3 万 9,659 円
(+1,139 円)

権限移譲に伴う難病医療費の増加等により前年度より約 6.7 億円増

総務費
3 万 9,581 円
(+593 円)

三保生涯学習交流館建設事業費の増加等により、前年度より約 2.9 億円増

その他
33,064 円

＊一般会計のそれぞれの額を平成 30 年 2 月の推計人口で割りました。（カッコ内は前年度との差額）

歴史文化の拠点づくり　8．0億円

■歴史文化施設整備の本格着手
2021 年秋以降の開館を目ざし、予定地の旧青葉小学校の解体、展示内容の検討等を行う。

歴史文化施設外観イメージ

■市民文化会館（アリーナ・ホール）整備方針の策定

■追手町音羽町線の水辺デッキの整備
駿府城公園の堀にデッキを整備するほか、歩道を拡張して多目的広場をつくる。

■駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーションの開設
設置場所：中央体育館敷地内
供用開始：2018 年 5 月 1 日（予定）

施設イメージ

■葵舟によるお堀の水辺の活用

海洋文化の拠点づくり　3．1億円

■海洋文化施設の土地取得調査の開始
日の出地区の整備予定の海洋文化施設の官民連携の可能性や、土地取得に関する調査を行う。

■新清水庁舎建設基本計画の策定
「基本構想」を踏まえ、新たな清水庁舎の機能や事業手法等を示した「基本計画」を策定する。また、建設予定地における地質及び土壌汚染調査を実施する。

■水と光のプロムナードによる清水都心の演出
港や巴川の水辺空間を「水と光のプロムナード」で演出する。

実施イメージ（ドリームプラザ）

■清水港臨海部グランドデザインの策定

教育文化の拠点づくり　4．4億円

■ＪＲ草薙駅南北駅前広場の完成
平成 28 年度から実施している草薙駅前広場の整備事業を完成させる。（情報案内板・ベンチ設置等）

■県大・常葉大と連携したイベントの開催

常葉大学草薙キャンパスの 4 月開学に合わせて、県立大学と常葉大学の連携を後押しするイベントを開催する。

■外部有識者による高等教育のあり方検討

■東静岡アート＆スポーツ / ヒロバの運営

ローラースポーツ室内スペース

「健康長寿のまち」　11．6億円

■生涯活躍のまち静岡（ＣＣＲＣ）の始動
市内 2 地区において「健康長寿のまち」モデル地区づくりを推進する。

1. 葵「おまち」地区（葵区中心市街地）
   お試し居住事業、地域活動支援を推進する地域コン　シェルジュ事業等
2. 駿河区「共生」地区（駿河区役所周辺地区）
   地域福祉推進事業、地域・多世代交流事業等

■総合的な自転車安全教育の推進
子ども園へのキックバイク導入、幼児期における自転車安全教育、サイクルフェス開催等

自転車キッズ検定

■地域包括支援センター増設による地域支援の強化

「まちは劇場」　5．7億円

■まちかどコンサートなどの文化クリエイティブ活動の支援
1. ストレンジ・シードの開催
   演劇ダンスを中心としたパフォーミングアーツイベント
2. まちは劇場コンサート
   ・まちかどコンサート（年 48 回）
   ・学校訪問コンサート
3. 東静岡アートパーク事業
   野外での現代アートイベント
4. 市民参加型舞台公演

まちかどコンサート

ストレンジ・シード

■まちは劇場演技スポットの整備・運営

誰もが日常的に「まち」の様々な空間において、大道芸・ダンス・音楽等の文化に触れられる事業を実施する。
・演技スポットの設定
演技スポットイメージ・パフォーマンスライセンス交付等

■パブリックビューイングによる清水エスパルスの応援
アウェイゲーム 5 試合のパブリックビューイングを開催。
場所：ＪＲ清水駅東口広場
　　ＪＲ東静岡駅北口広場

観光文化経済委員会

「まちは劇場」事業について

Q　市民の意識調査で、「静岡市が推進している『まちは劇場』を知っていますか」の質問に、知らない市民が 86.4%だった。このことをどう受け止めているのか。行政側の情報発信の仕方等の課題はなかったか。「まちは劇場」のイメージは、街頭でのパフォーマンスと捉えていたが、屋内のコンサートやイベントも含んでいるのか。

A　この数字を重く受け止めている。平成28年にロゴを作成し、普及に努めてきた。この調査までには 1 年しか経過していなかったので、まだ市民に浸透していなかったと捉えている。今後このロゴを幅広く使用してもらい浸透していきたい。
イメージとしては、すべてを含み、まち全体をワクワクドキドキ感あふれるまちにし、それを日常的なものにしていくことを目ざしている。

Q　演技スポットの設定やライセンスの交付を考えているとの事だが、どの様に進めていくのか。

A　まずは公共空間に演技スポットを設定していきたい。清水駅東側・青葉イベント広場・静岡駅地下広場・呉服町界隈・けやき通りなどを検討している。
又、演技者は審査員で審査し、ライセンスを発行する。後々は民間空間でも進めていきたいと考えている。運営は NPO などに委託してやっていきたい。

日本平動物園について

Q　ピューマやジャガー等をクラウドファンディングを使い増やしていきたいとの事だが、象が高齢と聞いている。象の購入についてはどうか。

A　象については、ワシントン条約などの制約や、群れで生活する動物などの性質などのため、動物園で広い場所が必要となり、数頭同時にとなると様々な課題が出て来るので検討が必要だ。
お金で買うのではなく、動物園間のやり取りで行うなど、検討課題が多々ある。

歴史文化施設について

Q　歴史文化施設の建設予定や展示内容については、どのようになっているのか。

A　2021 年の開館を目指している。すでに設計者も決まり、有識者懇話会を設置して検討を進めている。

歴史文化施設外観イメージ図

徳川家康はもちろん、そのつながりから、今川義元の歴史も展示内容にしていく。甲冑などレプリカの展示など考えている。
今後展示などは懇話会で詰めていくことになる。又「歴史文化拠点推進監」を配置し組織体制を強化していく。

県指定文化財　東海道図屏風
（歴史文化施設で展示予定）

ＭＩＣＥ（マイス）の推進について

Q　「MICE が推進されているまちだと思いますか」の意識調査で、75・2%の市民が思っていないと答えている。これをどう受け止めているか。

A　市民に周知していくことが大事である。かつて行われた国際軍縮会議などは市民とコラボしてイベントを行った経緯があるが、なかなか継続が難しい。今後の方向性として、大きな国際会議より、学会などを招致したい。国連会議や政府系は行政の負担が大きく大変だ。今後は、するが企画局と連携し、コンベンションなどの充実を図っていきたい。

ＭＩＣＥとは…
Meeting（会議・研修）、Incentive（招待旅行、travel, tour）、Conference（国際会議・学術会議）、Exhibition（展示会）の 4 つの頭文字を合わせた言葉。企業などの会議やセミナー、国際会議や学会、展示会・イベントなど、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント。
一般的な観光旅行より経済波及効果が大きく、都市の競争力を向上させる効果があるとされている。